

# 農の未来ネット

NO.37  
7月号

特定非営利  
人「農の未来

活動（NPO）法  
ネット」

理事長：倉本器征（東京農工大学名誉教授）

発行責任者：田沼 繁（NPO法人農の未来ネット事務局：電話&FAX 042-313-3620）

編集長：西村正昭

<http://www.nou-mirai.org/index.html>

\*\*\*\*\*

農の未来ネット  
第4回総会が開かれる

あらたな飛躍を目指してスタート

\*\*\*\*\*

## 農の未来ネット

編集長 西村正昭

農の未来ネットの第4回通常総会（2012年）が6月30日、東京・千代田区のワークス・フェアビнденで開かれ、13人が出席（委任状22人）しました。総会では、平成23年度事業報告、活動計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書が報告され、平成24年度事業計画、平成24年度活動予算が提案され、質疑応答がなされた後、すべての議案が承認されました。平成24年度の事業がスタートしました。総会の後、フェアビнденの石井正江さん（農の未来ネット監事）、森さんの心のこもった料理を味わいながらお酒を酌み交わし、親睦を深めました。

冒頭、倉本器征理事長が農に携わりたい人が増えているなかで農の未来ネットへの期待もふくらんでおり、果たす役割も大きくなっていると強調し、総会を機会に発展させてい

きたいとあいさつしました。田沼繁事務局長が、埼玉産直センターと連携して武蔵大学のインターンシップの学生1人を受け入れ、さらに同大学が主催するインターンシップ交流会へ参加し、農の未来ネットを紹介したこと、「サロン学習会」を2回開催、「福島先祭町を堪能する現地ツアー」も実施し35人が参加したことなど交流事業を報告。また、「わたしの納豆」についての支援事業は、農林生協と連携し



【写真】総会での乾杯

て普及を行ったが、十分な成果が得られなかったと説明。田沼事務局長は、埼玉県さいたま市の農家から水田25アールを借り、一之瀬副理事長（農場長）を先頭に「みらい体験農場」を開設、約1000キログラム（粳重）を収穫、精米して会員に提供し好評を博した経験を述べました。その経験をもとに会員制の「米作りマイスター」を創設したことを報告。機関紙を定期発行し、農の未来ネットのホームページに

Twitterに加えてFacebookを開設し、宣伝を強めていることなども話しました。

平成24年度の事業計画については、アグリ・ボラバイト事業に参加するアグリ・ボラバイダーの獲得、受け入れ農家を増やす、ホームページ情報の強化、機関紙「農の未来ネット」の定期発行、「米作りマイスター」の促進、「サロン学習会」などの開催をめざして取り組む方針を説明。「サロン学習会」を年に2回開く、9月から10月に都市農業に就農した農民を訪問する見学会の計画、「わたしの納豆」の普及拡大、「米作りマイスター」を中心に「みらい体験農場」での農作物栽培の推進などを田沼事務局長が提案しました。

討議の中では、「内定していた就職先の会社を断り、無農薬茶の栽培に興味を持ち、農業を始めた」「将来は祖父の田んぼで農業をやりたい」など、農業を選択する若者がいるという発言がありました。8月18日～8月27日までの間、武蔵大学の3人の学生がインターンシップで埼玉産直センターに行くことも明らかにされました。1人から3人にインターンシップへの参加者も増え、学生を受け入れる農家をもっと広げていくことが求められています。

交流会では、石井さんから詳しい料理の紹介を受けたあと乾杯し、自己紹介をしながら農への思い、農の未来ネットへの期待、要望などがだされ、楽しい時を過ごしました。



農の未来ネット事務局

濱田 仁

消費者が持ち込んだ大豆を、好みの柔らかさ

の納豆に仕上げお届けする「わたしの納豆」。この「消費者が大豆を持ち込み、好みの柔らかさの納豆にできる」特徴について、「NHKおはよう日本」内のコーナー「まちかど情報室」で取り上げられました。

NHKから、わたしの納豆の特徴をまとめた撮影の依頼を受け、原料大豆と納豆の受け渡しをしていただいているワーカーズ・フェアビデン、納豆製造をお願いしている志賀食品製造所の志賀さん、そして実際にわたしの納豆の製造依頼をしてくださっていた消費者の永野さんにご協力いただき、主にフェアビデンを場所に撮影を行なうことになりました。

まずは永野さんが大豆を持ち込む様子、そしてフェアビデン石井さんに大豆を手渡す所、そしてパッケージの撮影。永野さんも石井さんも緊張した様子でした。そして、志賀食品製造所をお借りして納豆を蒸す様子を撮影。その後、永野さんのご自宅をお借りして、納豆を召し上がっている様子と撮影は進みました。

それらの様子は5月18日に無事に放送されて、ご協力いただいた方々に担当者として深く感謝申し上げます。撮影から放送まで期間が短く、会員の皆様へはメールおよびTwitter、Facebookで告知しましたが、ご覧になられたでしょうか。

放送をご覧になった方から早速申し込みを受け、これを機会に口コミでも「わたしの納豆」が広まればと考えております。



【写真】取材を受ける事務局長の田沼(お蔵入りの貴重なシーン??)

実は、田沼事務局長による「わたしの納豆」の説明も撮影したのですが、短い時間のコーナーのためか、残念ながら放送には入りませんでした。おそらく事務局長の思いが熱すぎたのではないかと考えています。

みらい体験農場だより

## サツマイモの栽培 耕土・畝作りそして定植

「みらい体験農場」農場長

一之瀬今朝一(愛称:おらっち)

ことしから、サツマイモ栽培をはじめました。栽培するところは、稲作りをしている脇の畑。約 60 坪です。5 月 27 日(日)に、管理機を使って、雑草の生え繁る畑の土起こしを行い、25 本の畝を作りました。畝幅は約 70cm です。畝作りは 2 人で行い、鍬を使った汗びっしょりの人力作業でした。でも、なかなかの畝に仕上がっていますよ。

芋苗の定植作業は、6 月 9 日に予定したのですが、その日はあいにくの雨降り。よく 10 日(日)の午後 1 時から芋苗植作業を行いました。参加者は、私と、田沼さん、戸田さんたちです。サツマイモ苗は、約 600 本の苗を植え付けました。苗の植え付け幅は約 30cm。棒切れを 30cm に切って定規替わりにし、同じ棒で畝の頭に斜めに穴を開けて芋苗を指し込み、苗の隙間を土でふさぎつ植えつけ、1 本 1 本丁寧に植えていきます。でも、数が数、相当の時間が掛かりました。植えた品種は、2 品種です。秋には芋掘りイ

ベントを行います。どんなサツマイモが出てくるか、秋の収穫を楽しみにしてください。皆様のご参加をお待ちしています。



【写真】定植作業をする一ノ瀬農場長(右)

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆  
農の未来ネット加盟団体

東京農大総研総会に参加しました!

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆  
農の未来ネット事務局

濱田 仁

田沼事務局長に同行し、6 月 28 日に開催された東京農業大学／総研研究会の通常総会に出席しました。総会では、平成 23 年度の活動報告および会計報告、平成 24 年度の予算報告と活動方針が議論されました。

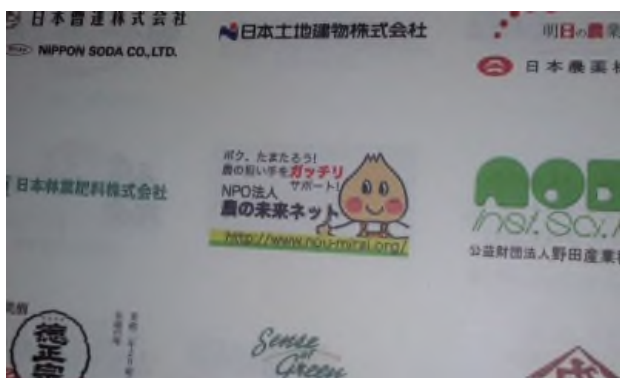
私たちは、総研研究会のバイオビジネス部に法人会員として所属し、これまでに開催してきたセミナーを共催など行なってきています。当日は、総研研究会の事務の方とも交流し、今後の私たちの活動について説明を行ないました。

通常総会後は特別講演も行なわれ、「世界の構造転換と日本の進路」と題し、日本総合研究所理事長の寺島実郎氏が登壇されました。寺島氏は、農水省の「食」に関する将来ビジョン検討本部委員に所属するだけでなく、TBS系、テレビ朝日系の情報番組にも出演されているので、ご存知の方も多いと思います。

講演は、1990年代から2010年代までの日本

と世界との物・人・物流の変遷をまとめ、今後、日本はどのような国際認識を持ち、どのように進めばよいのか、を示す内容で、考えさせられる項目ばかり。特にアジアとアメリカとの貿易政策の重要性については、より深い情報収集の大切さを感じました。

さて、通常総会は、大学と企業の担当者が顔を合わせる機会でもあるため、懇親会も開催されました。多くの方と出会い、私たちの活動を説明すると共に、様々な情報の交換を行なうことができました。農の未来ネットでは、今後もセミナーやサロン交流会を介して、総研研究会と連携して積極的に活動していきます。



【写真】 たまたろうロゴ

最後に、東京農大総研研究会は2011年に設立30年を迎え、その記念誌を発行しました。その記念誌には法人会員のロゴも収録されており、農の未来ネットのロゴも掲載されています。ロゴは公式キャラクターのたまたろうとアグリボラバイトへの参加を呼びかけるデザインとなっています。

## 会員・支援者の皆さまへ

日頃より、NPO法人農の未来ネットの活動にご理解とご支援をいただき有難うございます。お陰様で、6月30日(土)に第4回通常総会を開催し、議案を全てご承認いただきました。今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。また、これからも農

の未来ネット活動を物心両面から支えていただければ幸いです。なお、まだ当法人にご入会されておられない支援者には、この機会に、是非ご入会を心よりお願い申し上げます。

個人会費 6000円(年間)

ご案内の「米作りマイスター」ご希望の方は、2000円が加わり、8000円(年間)となります

【会費振込先】

郵便振込口座記号番号

00140-0-428901

加入者名 田沼 繁

\*\*\*\*\*

## 編集後記

「やっぱりそうだったのか」--7月5日に発表された東電福島第一原発を検証する国会の事故調査委員会(黒川清委員長)の新聞報道記事を丹念に読めば読むほど怒りがわいてきました。私が思っていたとおり調査報告書は「(事故は)世界の歴史に残る大事故」と指摘しています。2012年6月時点でも、事故は収束しておらず、依然として被害も継続していることを明らかにしています。しかも、事故の原因は自然災害ではなく人災と断言しています。調査報告が出る前にさっさと大飯原発の再稼働を認めた野田首相は、これでも「国民の生活を守る」というのでしょうか。福島原発事故の教訓も学ばず、電力会社の言いなりになって強行する野田首相への怒りがますます高まり、毎週金曜日の夜、首相官邸前での抗議行動はどんどん広がっています。高校生だった私は詳しくは知りませんが、「1960年の安保闘争のようだ」と当時参加した方は語っているようです。「野田内閣打倒」という抗議行動の声が私の耳にも聞こえてくるようです。子や孫のために「原発ゼロ」の日本社会を後世に残すためにも一日一日を悔いのない取り組みをしなければと思っています。(西村)

\*\*\*\*\*